



吉野作造記念館だより

〈編集・発行〉特定非営利活動法人 吉 川 学 人

❖ 企画展「大正時代の女性と吉野作造」史料紹介 ❖

吉野の長女 日本初の女性建築家 土 浦 信

大正一〇〇年を記念して、当館では「大正時代の女性と吉野作造」企画展を十二月から三月まで開催しました。企画展では、女子教育の普及を背景に社会へと進出し、自立をめざした大正時代の女性たちと、その応援者としての吉野作造を紹介しています。

女性の高等教育普及や母子保護活動など、さまざまな活動を通して女性や家庭生活を支援した吉野は、六人の娘の父親でもありました。吉野の教育方針は自由放任で、女性であっても自分の好きな道を選ぶことを望みました。しかし一方で、選んだからには自ら責任を持つことを課し、自発的に考え行動することが大切だという考えをもっていました。

そのような教育方針のもと、吉野作造の長女信（ぶ・一九〇〇年～一九九八年）は、日本初の女性建築家となります。信は女子高等師範学校附属高等女学校（現・お茶の水女子大学附属高等学校）を卒業後、アテネ・フランセなどでフランス語を学びました。吉野が静岡県三島に近い畑毛温泉に建てた別荘の設計を、東京帝国大学を卒業したばかりの建築家・土浦亀城（二八九七～一九九六）に依頼したことがきっかけで、一九二二年（大正十一年）に信は土浦と結婚します。

その後、夫とともに渡米し、一九二三年（大正十一年）から三年間、帝国ホテルを設計した建築家フランク・ロイド・ライト（一八六七～一九五九）のもとで建築を学びました。

帰国後は、女性建築家として主に住宅設計を行い、



吉野の長女・土浦信（のぶ）

懸賞設計に応募することもありました。一九二九年（昭和四年）に行なわれた朝日新聞主催の「新時代の中小住宅」懸賞では、甲種銀賞に入

選し、一九二九年五月二十二日発行の『アサヒグラフ』には他の受賞者の設計とともに、信の写真が紹介されています。写真の信は、短い髪に帽子や洋装というスタイルで当時の「モダン・ガール」そのものでした。

夫の土浦が建築設計事務所を開くと、個人として設計をすることは減るものの、事務所内で設計を手伝うなど、建築家としての活動は続きました。一九三五年（昭和十）に夫と共同設計した東京都品川区上大崎の自邸は、「白い都市型モダニズム」と称され一九九五年に東京都の有形文化財に指定されています。

また信は女性が家事のしやすい住環境を提案し、合理的に家事をするための工夫や改善案を婦人雑誌などで披露することもありました。それは家事を行う女性と建築家という二つの顔を持つ信ならではの視点が反映されたものでした。

社会的な資格制度が整っていない時代に、女性が建築家として活動することは容易なことではありませんでした。信は次第に建築の分野から離れることになりましたが、ものづくりを通して自己表現をすることへの意欲はそがれることがなく、戦後は弦田英太郎（一九二〇～）に油絵を、末松正樹（一九〇八～一九九七）に抽象画を学び、六十九歳ではじめて個展を開き、九十三歳までに六回の個展を開催しました。そのほか写真に取り組んだこともあり、生涯にわたり芸術分野を通して自己表現を模索し続けました。その人生は誰かに強要されたものではなく、まさに自ら選び歩んでいったものでした。



土浦邸はモダニズムの「白い箱」

2012年度の 行事案内

● 4月21日(土) 千葉眞先生講演会

新しい公共と熟議デモクラシー
—吉野作造に学ぶ—

● 9月初旬

吉野ネットワーク
交流事業



● 5月5日(土)

GW イベント

親子で参加できる
楽しい企画がいっぱい。



● 10月初旬

読売・吉野作造賞
受賞者講演会



● 5月～6月 記念館講座

6回の講座(予定)

● 秋(予定)

大崎こどもジャーナリスト
コンテスト

● 5月27日～7月29日 企画展

「末は博士か大臣か」

産業合理化と中小企業の育成に尽力し、
高度経済成長を支えた吉野信次の事跡を
中心に紹介します。

● 11月中旬～2月初旬 企画展

「吉野作造とユニバーシティ・
エクステンション」

● 6月～7月(予定) 講座

「吉野信次と産業振興(仮)」

● 12月～1月(予定) 講座

「吉野作造とユニバーシティ・
エクステンション」

● 8月4日(土)

サマーイベント

夏休みの一日を
記念館で



● 出前講座 ● 招館事業

広く理解いただくため、「郷土の偉人吉野
作造」の出前講座と、来館団体への展示説
明を行っています。電話で申込ができます。

就任の御挨拶

副館長 大川 真



昨年六月に
事務長、続け
て十月に副館
長に就任致し

ました大川真と申します。昨年三月まで東北大学文学研究科助教として奉職し、計十八年アカデミズムの世界でありましたので、事業運営などは不慣れで面食らうこともしばしばありました。私が記念館・大崎での生活を選んだ最も大きな契機は大震災です。幸い私の家族は全員無事でしたが、命を落とした友人や親戚も多くおり、存在の根幹そのものを揺さぶられました。復興のために自分ができる最善の方途は何かと模索しました。復興はまずインフラ整備が第一ですが、続く段階では、文化・心の復興、将来の復興を担える人材の育成が重要な鍵となります。これらを考えた末に、私の研究分野の大先輩である吉野作造さんが関東大震災後に社会の復興を献身的に取り組んでいたことに天龍のごとく思い当たりました。第二の吉野さんを育成すべく微力ながら、記念館の運営に取り組んで参ります。

企画展紹介

吉野作造と震災・復興

— 関東大震災と人々の生きる希望 —

二〇二二年八月十三日～十一月十三日

一九二三年（大正十二）九月一日に発生した関東大震災—未曾有の被害をもたらした震災は、人々の精神にも大きな衝撃を与えました。震災の被害にあつても、吉野作造は冷静に行動し、民衆の自立と連携を促す社会活動の必要性をいち早く説きました。本企画展では、当時の被害や救護活動の様子と、吉野をはじめ復興に尽力した東北人の実績を紹介しました。

I 関東大震災の被害と復興

一九二三年（大正十二）九月一日午前十一時五八分、マグニチュード七・九の激震が関東地方を襲った。火災は三日間にわたり、東京・横浜はほぼ壊滅、死者・行方不明者は一〇万五千人余りにのぼる。震災が全国に報道されると、各地から被災地にむけて食料や救護物資が送られ、義捐金品が募集された。また、全国から派遣された救護隊が被災者の救療や炊出しに従事した。

さらに、欧米諸国や中国など多くの国から義捐金や救護物資が日本に届けられた。特にアメリカでは、クーリッジ大統領と米赤十字社が協力して国民に義捐金募集を呼び

II 復興に向けた東北人

一 吉野作造

自宅は被害をまぬがれたものの、東京帝国大学をはじめ、慣れ親しんだ町並みの崩壊に大きな衝撃を受けた。吉野は知人の見舞いと被害状況調査のため、荒れ果てた東京市街を歩いた。

朝鮮人虐殺を知って「苦々しき事限りなし」と憤慨した吉野は、知識人集団「二十三日会」の一員として政府の責任を問い詰めた。また、大杉栄らが殺害された事件についても、軍事官憲による思想問

題への職権行使を批判した。震災前から東京帝国大学学生基督教青年会（東大YMCA）に関わっていた吉野は、恩恵を施す慈善事業ではなく、人々の自立を促す社会事業を目指していた。母子の保護救済を目的とした賛育会では、妊婦の家庭訪問や実情調査、人々の要望を聞く「井戸端会議」など、地域の社会化活動に取り組むなどした。

人々の自治・自立を重視する吉野の社会事業は、「人間のうちには理想的なものが内在する」という、キリスト教由来の理想的な人間観がある。

二 後藤新平

震災直前の八月二八日に組閣の命を受けた山本権兵衛から入閣の打診を受けていた後藤は、震災翌日に山本の元に駆けつけ、ともにこの大惨事に対処することを決意、内務大臣として入閣する。遷都論を、復興への意欲を阻害し、さらなる社会混乱を招くものだと却けた後藤は、最新式の都市計画を採用した新首都・東京を目指す復興計画に着手する。結果、世界初とされる既成市街地における区画整理事業や街路、橋梁、運河の整備が行われ、現代に至る近代都市としての体裁が整った。

一九三〇年（昭和五）、復興事業の完成を祝う帝都復興祭が催されたが、後藤自身は復興の完成を見ず、一九二九年（昭和四）、脳溢血で世を去っている。

三 布施辰治

震災に乗じて朝鮮人、社会主義者、労働組合員が検挙、殺害される中、布施を中心とする弁護士団体はその実情を調査し、警視總監に談判した。

また、当時三〇〇万人いた東京市民の大多数が借家人であったことから、震災による住居焼失後における彼らの無権利状態は社会問題化した。借家人たちにバラックを建てる権利は無いとする地主に対し、布施は「家は焼けても借地権は残るため、家を建てても構わない」と主張、これが地主有利な法理論を打ち破り、政府に「借地借家臨時処理法」を立法化させた。

四 鈴木文治

東京や神奈川では工場の九割が被災し、失業者が多数生まれた。鈴木は後藤内相から失業者への雇用確保を引き出し、日当と食事が提供される焼け跡の整理などで失業者救済に尽力した。口よりも手、議論よりも実行を重んじる鈴木

の方針により、気持ちの安定を取り戻す労働者も多かった。また、震災の混乱に乗じて社会主義者が殺害された亀戸事件に対し糾弾活動を行った鈴木は、翌年、ジュネーブで開かれた国際労働機関（ILO）に参加、亀戸事件は国際的関心を集めることになる。

III 東日本大震災の被害と復興

本企画展と併せて、東日本大震災以降、被災地域で支援活動を行っている団体・個人のなかから、大崎市田尻にある「さくらの湯」の敷地内にボランティア・ピレッジをつくり、沿岸部に継続的・体系的な支援活動を展開している東京のNPO法人オン・ザ・ロードの活動を紹介した。大崎市の一員として、オン・ザ・ロードの活動に心から感謝の気持ちを申し上げたい。



東日本大震災と復興

三十一 未曾有の大震災

二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災で岩手・宮城・福島は特に甚大な被害をこうむりました。全国から被災地に向け、い

まも復興や支援の活動が広がっています。吉野作造記念館では、企画展や、震災復興に関わるシンポジウム・トークセッション・映画会を開催しました。

シンポジウム

大崎市岩出山 有備館の復興

二〇一二年八月二〇日



東日本大震災で岩出山「有備館」の母屋が倒壊しました。歴史的建造物についてのシンポジウムが、建築遺産再生研究推進体空間史学研究会との共催で開催されました。

テーマは「建築・文化を再生するということー旧有備館の修復を中心にー」。

東北大学野村俊一氏の司会で、山形大学永井康雄氏、仙台市博物館前館長佐藤憲一氏、吉野記念館大川真副館長が研究成果を発表しました。時代を変える原動力となった旧有備館の人材育成システムや人材登用なども明らかにされました。

トークセッション

わたしたちの道程

未来を歩むためにー

二〇一二年九月二〇日



震災後の復興に積極的に取り組んできた諸団体の活動を紹介します。トークセッションでは「未来」のヒントをつかむ話し合いを行いました。

NHKの大野太輔氏が制作した閉上地区のドキュメンタリー上映と説明がありました。ついで「鎮魂」をテーマに被災地公演を行っている仙台の劇団OCT/PASS主宰

石川裕人氏、震災直後から活動を続けているNPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク事務局長の佐藤大介氏から活動紹介と報告がありました。

映画上映会

「宮城からの報告」

ー子ども・学校・地域ー

予告編

「わたしはここにいます」

石巻・門脇小学校・夏

二〇一二年十二月二〇日



映画監督の青池憲司氏が製作中のドキュメンタリー映画予告編（二〇分）の無料上映会を開催しました。観賞後は青池監督と志津川高校佐々木純教諭とのトークショーで活動の動機や、子供と教育・地域の結びつきを、現場の目線で語って頂きました。映画の本格完成と上映は二〇一二年夏の予定です。

夏の前定です。

吉野作造記念館ホームページがリニューアル!!

モダンで
レトロな
イメージ

当館のホームページでは新しいイベント情報などを沢山掲載しています!! (利用案内、吉野作造について、施設貸出、等) そのほかにも新しい機能が充実しています!!

吉野作造記念館

〒985-0801 宮城県仙台市青葉区大森 0229-23-7100

ホーム 吉野作造記念館の施設のご案内 入館料について 交通アクセス イベント開催情報 お問い合わせ

メールマガジン 定期的に最新のニュースや情報をメール配信いたします。メールアドレスをご入力ください。

入館券案内

記念館について

吉野作造の経歴

生誕 1878年1月29日 吉野作造記念館からのメッセージ

没年 1959年1月29日

生誕地 大崎市岩出山

学歴 大崎市立岩出山小学校、大崎市立岩出山中学校、大崎市立岩出山高等学校、東北大学文学部国文学科

職歴 大川真副館長

10/15 吉野作造学会 二人の子供を産むまでおぼろげに

12/17 日本経済地理学会 吉野作造と経済地理学

YOSHINOサポーター募集について (平成24年度分) 11月10日現在、YOSHINOサポーター募集の受付が完了しました。お申し込みいただいた方には、お礼状とYOSHINOサポーターグッズを送付いたします。お申し込みは、お電話またはメールでお申し込みください。

募集内容

- ・入会費 50,000円 15名
- ・年会費 30,000円 20名

- メルマガ配信！
みなさんのアドレスを登録していただき定期的に当館の情報をメール配信します。
- ユーチューブ動画掲載！
「吉野チャンネル」
- 吉野作造記念館モバイルサイト



ホームページは 吉野作造記念館 で検索

- 携帯電話用アドレス
<http://www.yoshinosakuzou.jp/yoshino.ht>
- パソコン用アドレス
<http://yoshinosakuzou.jp>



吉野作造記念館を見て —古川高校の感想文—

二〇二二年三月に、古川高校一年生が三回に分けて吉野作造記念館の見学に来てくれました。その感想文を以下に紹介します。

感想文①

一年 高橋香奈恵



私は作造と同じ、古川第一小学校出身です。そのため小学校から、作造のこと

知っているつもりでした。しかし、久々に記念館を見学してみると、小学校ではなかった知識が増えたためか、より深く作造について学ぶことができました。展示室をのぞいてみると、現代社会や世界史など学校で習った言葉が沢山出てきました。中には最近習ったばかりの「与謝野晶子」の名前もあり、作造はこんなに有名な人物とも関わったんだと驚きました。映画の中で、作造は「自由

感想文②

一年 畠山沙有理

と平等」を目指したと言っていました。言論弾圧の時代の中で、自らの意思を貫き通し、民本主義を実現させた作造の後輩であることに私はな

身近なところにあるのに、行ったのは今回が初めてでした。吉野作造が古川出身であるということは知っていたものの、どのような人物であったのか、日本のために何を



考えを入れた民主主義であったということ。現在の日本の民主主義の祖がキリスト教の思想からきているというのが驚きでした。

また、吉野作造が古川のことととても愛してくれていたのことで、漢字の作者名に「古川学人」を使ってくれたりして、驚きとともに嬉しかったです。今回、教科書では絶対に習

われないようなことを多く学べてよかったです。とても良い経験になったなと思います。機会があればまたゆつくり行きたいなと思いました。

講演会要旨

今こそ東北健児の心意気を

—関東大震災の復興に見る

東北人の活躍—

吉野作造記念館 副館長

大川 真

今回の見学会では、映画「われらが同時代人 吉野作造」の鑑賞、常設展示の説明のほかに、「今こそ東北健児の心意気を—関東大震災の復興に見る東北人の活躍—」と題して、帝都復興院総裁として活躍した後藤新平（一八五七〜一九二九、現在の岩手県奥州市出身）、デマによる朝鮮人虐殺事件の真相究明、社会事業の育成に取り組んだ吉野作造（一八七八〜一九三三）、そして古高の一期生で失業者の救済に取り組んだ鈴木文治（一八八五〜一九四六）を紹介する講演を行った。震災後、これからの日本を担う若者の人材育成が非常に重要となってくる。私利私欲を離れ協働して復興に取り組んだ吉野ら東北の先人たちは、これからの社会を担う若人たちに大きな温かく強いエールを送っている。

吉野作造グッズ・絶賛発売中!! お土産&記念品などにも使えます!

レターセット
(封筒・便箋)
450円



一筆箋
300円



クリアファイル
(A4版)
250円



吉野作造
言葉のしおり



(1枚30円 全10種類)

被災地南三陸町 志津川高校からの発信

志津川高等学校教諭

東京都派遣 佐々木 純

吉野作造の業績から「震災復興のヒントは何か」を考へる中で、歴史を学ぶ意義も確認するために「大正時代の震災と復興―吉野作造の思想・活動を中心にして」というテーマで大川真副館長による講演会を実施した。

「復興計画プロジェクト」を立案させる学習活動を試みた。どんな地域に復興していくかについて、被災してみて問題に思ったことを身近な地域の視点から意識化させ、その課題解決の方策を考えさせた。津波への対策を講じるだけでなく、吉野の「人は他人を信じることで成長する」考えを敷衍した「地域の絆が深い町」づくりや吉野の「仕事が出る環境をつくる」として「仕事を失った人たちに對して平和村をつくり、きちんと仕事ができる環境をつくる」行動をしたと認識した。



大川真副館長

また、吉野の考えを「私たちに向けられた言葉である」と感じて「人間は正しくあろうとすれば必ず進化する」のだから「道徳の気持ちがおこれば、社会は発展する」復興につながる」と受け止めて「一人ひとりが人格を向上させて豊かな人間となって自らが主体となつて社会をつくること重要」という意思表示につながった。その一方、互いを尊敬するにはコミュニケーションが不可欠だが「他地域から来た人と話をするこ

と」が不得手な「東北人の弱さ」の克服の示唆も受けた。「なぜ歴史を学ぶのか」について「歴史はこれからの日本をつくっていく教材になる」との理解が得られた。換



佐々木純先生

言すれば、「歴史は、昔の出来事をヒントに未来を考えるもの」「歴史は過去のことを振り返るだけでなく、過去との対話で過去のことを学び、それを現代に役立てることが大事」と認識したのである。その過去との対話で「昔の出来事だけでも今と似ている」ことを学び、「昔も震災を乗り越えたと思うと今もきつとの越えたい」と思うと「私たちが歴史学習の効用を体感した生徒もいた。さらに「私たちはこれからの未来に必要な存在」と自己の存在意義を再発見し「自分たちはこれからの未来に歴史を残す重要な役割をはたしている」と自己の使命を再認識した生徒も出てきた。具体的には「歴史は次の世代へと伝えていくことが大切」だから「震災が起きたことは決して忘れてはいけ

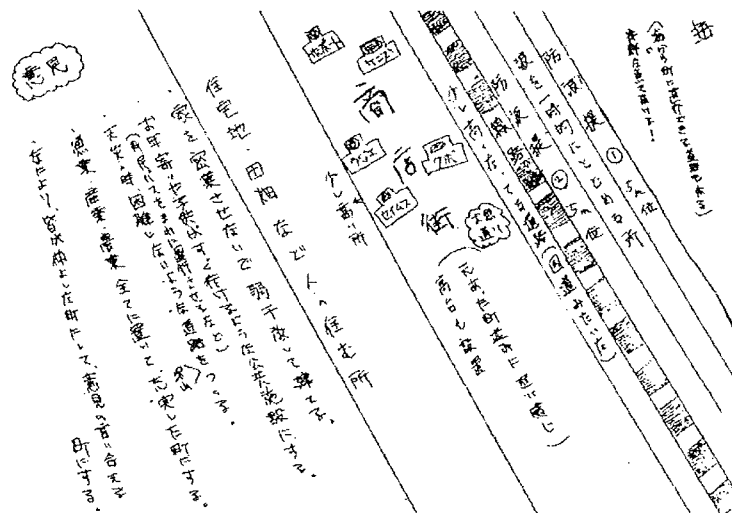
ないことなので自分が体験したことも次世代へと伝えていきたい」「話を聴いて考え方が変わった。震災で悲しい思いをしたけどもこれからは私たちが前みたい南三陸町に戻していきたい」と思うに至った。

次に、こうした思いを具現化するためにグループごとに「復興計画プロジェクト」を立案させる学習活動を試みた。どんな地域に復興していくかについて、被災してみて問題に思ったことを身近な地域の視点から意識化させ、その課題解決の方策を考えさせた。津波への対策を講じるだけでなく、吉野の「人は他人を信じることで成長する」考えを敷衍した「地域の絆が深い町」づくりや吉野の「仕事が出る環境をつくる

る」活動から「経済活動が盛んな町」に復興する考えを導き出した。そこで、こうした考えをイラストで表現させた。

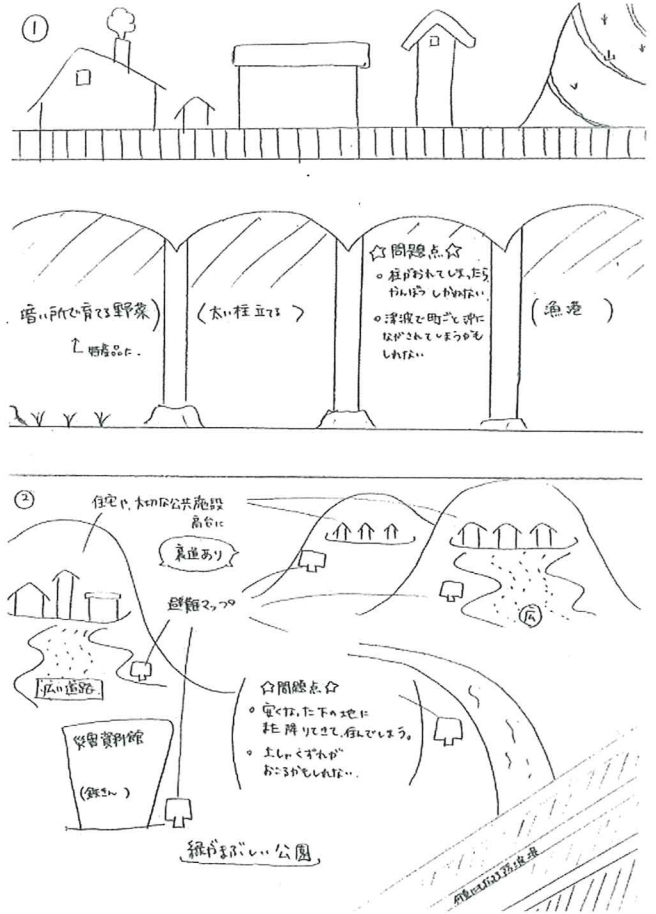
(1) 防波堤で町を守る

海岸に二重の防波堤を作つて商店街を守ります。住民の話し合いによつて、産業の復興や社会福祉を進めていきます。



(2) 町のレイアウト図

①は人工的な高台の上に町をつくり、津波に備えます。
 ②は高台には、住宅や公共施設を建て、避難マップの案内板を立てる。避難場所の公園と災害資料館も作ります。
 更に、発展学習として吉野と同様に復興に貢献した人物をレポートさせて、以下の作品に結実した。



震災復興を願う作文

志津川高等学校一年 首藤沙姫

私の住む南三陸町では、震災前の美しい風景を取り戻すための作業が日々行われています。

新平という人物を調べてみました。

先日、関東大震災の経験から東日本大震災からの復興について考える事を目的に、当時活躍した宮城県出身者の吉野作造に関するお話を聴く機会がありました。この講演会を受けて復興に貢献した東北人が他にもいることを知った私は、特に興味をもった後藤

後藤新平は震災発生の翌日に第二次山本内閣に入閣すると同時に、たった一人で帝都復興計画案を立てたことで有名です。その内容は「遷都しない」「復興費用に三十億円をあてる」など周りの人々を驚かせました。その後の議論を経て復興案は五億円ほどに縮小されましたが、後の震災に備えて多数の耐震構造の橋

や幹線道路を造り、水道の整備を行ったことで、東京を交通網の発達した美観都市にするという大きな成果をあげました。現在、東京には多くの公園がありますが、それらも震災時の避難場所になるようにと考えて造られたものがあります。

彼の計画案は現代にも影響を与えています。

今回発生した東日本大震災の規模は世界的に見ても五本の指に入るほどのものでした。最大クラスの揺れと津波に、原発の爆発事故も併発したこともあり、被災した地域

はとても多く、その爪痕は未だにくっきり残っています。平成二十三年度の三次補正予算案で復興にあてる費用はおよそ九兆円とされ、できる限り速やかな計画の策定と実施がすすめられてはいますが、復興にはまだ長い時間がかかるでしょう。

南三陸町でも確かに復興計画は実施されていますが、その全容がわからないというのも事実です。「南三陸町の復興計画案を知っていますか」というアンケートが行われたこともありますが

が、多くの人が「いいえ」と答えていました。よく知らない計画に対して不信感を抱くこともあります。後藤新平の計画案の中には「計画実行のために地主に断固たる態度をとる」というものがあります。何度も説明を行い、実際に成果をあげたため、当時の内閣への批判は少なかったそうです。速やかな復興実現



志津川高校前の被災写真

のためには、民意をしっかりと理解して行動することのできる指導者が必要不可欠といえるのではないのでしょうか。
 しかしながら、私たち住民ひとり一人が復興に尽力することも忘れてはいけません。小さな瓦礫の撤去などできることは沢山あります。あと何年かかるのかはわかりませんが、私は南三陸町が完全に復興するその時まで一人の住民として努力し続けたいと思っています。

企画展紹介

大正100周年記念

大正時代の女性と吉野作造

二〇二一年十二月三日〜二〇二二年三月四日

デモクラシーが広まった大正時代は、女子教育の普及にと
もない女性が社会へと進出した時期でもありました。彼女た
ちは仕事と家庭の両立や、男性社会からの反発という壁に直
面しながらも、多様な意見を社会に発信しました。本企画展
ではこの自立をめざす女性たちとその応援者としての吉野作
造に光をあてました。

I 大正時代の女性

大正は大衆化の時代であ
る。都会に集まった人々が会
社勤めをして家族を養い、
日々の生活の充実を生き甲斐
にする現代的な庶民の生活が
生まれた時代である。

都会で暮らす人々が生活の
知恵を得て、悩みを分かち合
う場になったのは雑誌メデイ
アである。『中央公論』『婦人
公論』『主婦の友』などがこ
の頃に創刊されている。

一九一一年（明治四四）、
平塚らいてうを中心に創刊さ
れた『青鞥』は、女性による
女性のための雑誌として画期
的であり、婦人問題の存在を
広く世間に知らしめた。婦人
問題の議論が盛んになると、
女性の権利拡充を求める運動

が広がり、平塚、市川房枝ら
多くの運動家が登場する。

II 吉野作造と女性

吉野作造の女性観はキリス
ト教から多大な影響を受けて
いる。旧制第二高校在籍中の
吉野を信仰に導いたのは女性
宣教師アンネ・S・ブゼルであ
る。個人の尊厳や平等を重ん
じるブゼルに、人生の指針を
得たと吉野は回想している。

吉野は女性の「天職」を
「結婚」「育児」と考えたが、
それは互いに人格を尊重し合
う男女の協力によって「家庭
」ホーム」を作るという、キ
リスト教的な人格主義に基づ
いていた。所謂「良妻賢母」
のような考えには反対であ
り、女性も男性と同等の教育
を受け、自主性を養うべきだ



とした。

一方で、一次大戦後に活発
化した女性参政権運動に対し
ては早急な実施に慎重だっ
た。日本の立憲政治自体がま
だ未熟であることに加え、留
学中に吉野が見聞した西洋の
女性に比べ、日本の女性は社
会に対する責任や貢献の意識
が低いと見えたからである。

吉野は女性教育を先決と考
えるとともに、実際の女性
の生活改善に向けて、賛育会、
家庭購買組合、法律相談所な
どの社会事業を展開した。
こうした吉野の思想を形
作ったのは生まれ育った家庭環
境でもある。吉野の母・こう
は、家業の傍ら養蚕の副業で
家計を助け、また子供に対し
て教育熱心であった。子供を
芝居を見せに連れて行くなど
活動的な女性だった。また、

吉野の生地では男女に関係な
く長子が家督相続する習慣が
あり、実際、五歳上の姉と三
歳上の姉が家督を継いだ。

吉野が恋愛結婚をした阿部
たまの、吉野の帝大在籍中
に仙台で教師として働く活動
的な女性だった。吉野の子供
は七人中六人が娘であったが、
個人の自由と責任を重んじる
吉野の教育方針のもと、建築
家、社会運動家、俳優など個
性的な道を歩む者が多かった。

III 現代社会の女性

女性の社会進出は今なお現
在進行形の問題である。しか
し、何をもち「社会進出」と
するかは一概に「定義し難い」
たとえば、「学校教育の場」
では半数の女性が「平等」を
感じながら、「職場」「社会通
念・慣習・しきたりなど」で
は「不平等」感が根強く残
る。「女性の能力発揮促進の
ための企業の積極的取り組み」
に積極的な企業も増えた
が、「家庭責任を考慮する必
要」「時間外労働、深夜労働
をさせにくい」という認識か
ら、「家庭を預かる人」女性」
の意識は今も固い。男性の育
児休業が依然「取りにくい」
のもそのためだろう。こうし
た背景には、「男の子らしさ」
「女の子らしさ」を肯定する

人が約七割いるなど、意識面
の問題もある。
一方で、「夫も家事や育児
を平等に負担すべきだ」が
「賛成」約八割、「夫婦は子ど
もを持つてはじめて認められ
る」が反対約七割であるな
ど、夫婦一対一の関係におい
て、協力して生活しようとする
意識が強くなってきている
ことが窺える。

吉野作造記念館講座

二月十八日〜三月二十四日

六回の講座

江戸から明治、大正期
の女性の行き方や考え方
の変化をたどり、吉野作
造の婦人論が歴史的に、
どのような意味を持ってい
たのかを考える講座です。
①江戸から明治の女性
②明治初めの「家庭(h
ome)」をめぐるす
れ違い
③女性による人格尊重の要求
④大正期の婦人論争
⑤吉野作造の婦人論I
⑥吉野作造の婦人論II



講演・講座の依頼

月日	依頼団体	講演内容	場所	講師
8月3日	尚綱学院同窓会	大坂信正と大坂マリア	仙台輪王寺	田中 昌亮
9月3日	税理士会研修会	大正100年を迎えて	吉野作造記念館	田中 昌亮
12月1日	宮城県高校PTA連合会	吉野作造の人格教育	吉野作造記念館	大川 真
12月8日	志津川高校	関東大震災と吉野作造	南三陸町	大川 真
12月15日	吉野作造を学ぶ会	二人のデモクラット	古川商工会議所	大川 真
12月17日	日本経済思想史研究会	大正から見た明治	慶應義塾大学	大川 真
2月21日	いきいき学園	吉野作造と民本主義	ハレットおおさき	田中 昌亮

八月三日 (尚綱学院同窓会)

「大坂信正と大坂マリア」
熱心なギリシャ正教徒の父を持つ大坂マリアは尚綱女学校を卒業して栗原基の妻となる。マリアとその兄弟や、アンネ・ブゼルとの交流を多面的な資料から追ってみた。

九月二日 (税理士会研修会)

「大正百年を迎えて」
本年は大正百年に当たる年。そこで吉野がブゼルを通して基督教の人道主義にふれ、民本主義と社会運動を押し進めた吉野の業績を振り返ってみた。

十一月一日 (宮城県高等学校)

PTA連合会事務局長研修会
「吉野作造の人格教育」
仙台尋常中学校(現、仙台(高)の一期生として入学した吉野作造は、初代校長の大槻文彦が林子平の伝記についてふれた講話によって、「私共はたしかにこれによって偏狭な島国根性の蒙をひられた」

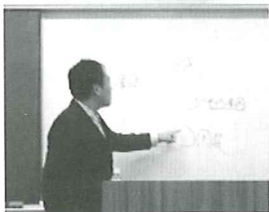
と述べている。吉野が後に展開する国際協調の精神は、大槻に影響された面も大きい。

十一月八日 (志津川高校)

「関東大震災と吉野作造」
一九二三年関東大震災に、東北出身者の活躍から震災復興のヒントを得る講演。
【関連記事は6頁に記載】

十一月十日 (吉野先生を学ぶ会)

「二人のデモクラット」
吉野作造とA・D・リンゼイという東西の「デモクラット」の言説の比較検討からなる、デモクラシーの実現に必要な社会的基盤についての考察である。直接の接点がない両者が期せずして共有していたのは、キリスト教を基礎とした人間に対する信頼、すなわち人格主義に根ざしたデモクラシー観であった。



間団体への注目である。教会のように人々が自発的に集

リンゼイが吉野と異なるのは、個人と国家を媒介する中

い活動する中間団体(「自発的集団」【ボランティア・グループ】)の活発化が、国家の運営を円滑にするとともに、国民個々の政治意思の下に国家を統御する道を開くとした。

十一月十日 (日本経済思想史研究会)

「大正からみた明治」
吉野作造と明治文化研究

大正七年に開始された吉野作造の明治文化研究によって「明治」という時代がはじめて自覚的に対象化されたと言いつつ、吉野は、当時の多くの文明論者に見られる言説の型、すなわち、明治の文明が物質文明であり、国民の内面的変化を伴わない表層的なものであったと型をとりつつ、独自の明治文化論を展開する。それは明六社に対する論、とりわけ福沢諭吉と中村敬宇に対する評価によく現れている。

二月十日 (いきいき学園)

「吉野作造と民本主義」
吉野作造の四大業績は、民本主義、無産運動への支援、朝鮮・中国に対する侵略批判、日本近代史研究の開拓として知られている。吉野博士

の側面を学生時代の交友関係、基督教、憲法に与えた影響などから身近に紹介した。

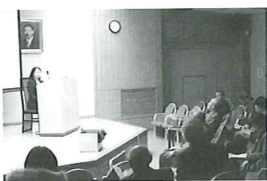
女性企画展関連講演

ルネッサンスの女性たち

家庭における役割と母性の表象

佐々木 千佳氏
(東北大学非常勤講師)

十四〜十六世紀にイタリアを中心に起きた文化の再生運動がルネッサンス。東北大学でベネチア絵画史を研究されている佐々木千佳先生は女性たちが描かれている絵にふれて、多面的な女性観を話してくれました。家にいる現実の女性、模範としての聖女、婚姻をめぐる女性像を新鮮なイメージで描き出し、家庭を支える人を理想の女性像と考えるのは古今東西共通のようでも語っておられました。



のイベント

2012.3

釜ちゃんも
応援



▼記念館前広場



八百屋市とチャリティーバザー
でにぎわう広場

▼古川シンフォニックウインズ



素敵な演奏でみんなに笑顔が
上を向いて歩こう
アンパンマンマーチ 他

▼古川高校コーラス部



合同演奏「翼をください」
には来場者も感動の涙

見上げてごらん夜の星を
負けないで
栄光の架け橋 他

チャリティーイベント

2011.5 / 4・5

音楽の力で復興の 第一歩を

▶100人の
メッセージ



▼古川高校吹奏楽部



集まった義援金は
大崎市に寄付
しました。
ご協力ありがとう
ございました。

▼古川黎明中学校・高校コーラス部



「美空ひばりメロデー」の歌声で
会場に元気を
ほたるこい
手紙一拝啓15の君へ 他

第5回 人材育成研修会

2011.9/2 ~ 4

当館では全国に吉野博士の功績を顕彰する事業の一環として人的ネットワークの構築を目的として二泊三日の合宿研修会を開催しています。



講師紹介

- 猪木 武徳氏 (国際日本文化研究センター所長)
- 阿川 尚之氏 (慶應義塾大学総合政策学部教授)
- 苅部 直氏 (東京大学法学部教授)
- 清水唯一朗氏 (慶應義塾大学総合政策学部准教授)
- 小川原正道氏 (慶應大学法学部准教授)
- 奈良岡聡智氏 (京都大学法学部准教授)
- ディック・ステゲウェルンズ氏 (オスロ大学准教授)
- 手嶋 泰伸氏 (東北学院大学非常勤講師)

参加学生

東北大学 京都大学 慶應義塾大学



ディック・ステゲウェルンズ氏



苅部 直氏

● 9月2日 講演会

演題 「大正の『開国』と吉野作造
一国をひらくこと、社会をひらくこと」
講師 苅部 直氏

● 9月3日 講義

演題 「吉野作造の対外認識と日本観」
講師 ディック・ステゲウェルンズ氏

● 9月4日 公開シンポジウム

司会進行	清水 唯一朗 氏
パネリスト	小川原 正道 氏
	奈良岡 聡智 氏
	手嶋 泰伸 氏

▼岩出山伊達遊撃隊



大崎に初陣

▼子育て応援団ジャイアンとばば



「親子ふれあいコンサート」元気いっぱい体を動かしてみんなで歌おう！

▼水てっぽうづくり



作ったあとはあてゲームでおたのしみ



サマーイベント

2011.7 / 30

夏休みの一日を
家族で楽しく

▼かざぐるまづくり



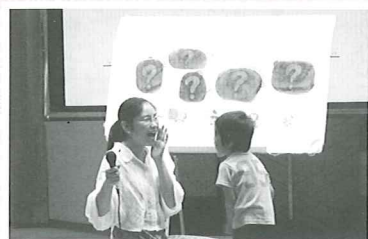
▼お花のヘアゴムづくり



オリジナルのかわいい作品の出来上がり



▼ポプラ社 読み聞かせ隊



絵本作家のいそみゆき先生の楽しいおはなし会

2011.11/12

第12回読売・吉野作造賞
上山隆大氏 受賞者講演会



上山 隆大氏

演 題
グローバル化時代
における
大学の行方を問う

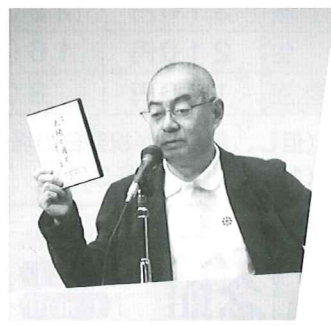
当館では平成14年度より受賞された方をお招きして講演会を開催しています。

2011年度の読売・吉野作造賞は「アカデミック・キャピタリズムを超えて—アメリカの大学と科学研究の現在」で上智大学経済学部教授の上山隆大氏が受賞しました。

アメリカの大学の实情や、日本の大学が歩んできた特殊な状況、そして学生や高校生は日本の中だけでなく海外にも目を向け、広い視野をもってほしいとお話し下さいました。

2011.8/6

「太陽と月と～私たちの憲法の情熱」
上映会



峯岸プロデューサー



日本国憲法誕生の全体像に迫ったドキュメント映画の無料上映会を開催しました。

この映画の制作時に当館で史料を提供。その縁で震災後、地域の皆さんを応援するために無料で上映会を開いていただけることになりました。当日はプロデューサーの峯岸和生氏が来館して下さいました。

二〇一一年三月～二〇一二年二月
寄贈資料一覽

多くの方のご厚意を得て貴重な資料をご寄贈いただいております。厚く御礼申し上げます。

「順不同」
「敬称略」

（資料名）

- 『日本国憲法誕生 知られざる舞台裏』
- 『評伝 平澤計七』
- 『この人から受け継ぐもの』
- 『一週間』他十四点
- 『新潮新書四一〇 日本語教室』
- 『聖句書道』二一五号
- 『自由民権』二十四号 他一点
- 『キリスト教教育と近代日本の知識人形成—東北学院を事例にして—』
- 『月刊 社会運動』第三七三～三八三
- 『日本政治百年史』他一点
- 『キリスト教教育と近代日本の知識人形成—東北学院を事例にして—』
- 『内ヶ崎作三郎立候補演説演題』他九十三点
- 『ふかいこととおもしろく創作の原点』他二点
- 『もういちど読む山川倫理』
- 『政治思想研究』第十一号抜刷『デモクラシー』と『生存権』
- 吉野作造と福田徳三の思想的交錯—他二点
- 『大学史紀要』第十五号『三木武夫研究Ⅱ』
- 『歴史地理教育』七十七号 他一点
- 『郷土たじり』第三十三号 他一点
- 『アカデミック・キャピタリズムを超えて』
- DVD『太陽と月と 私たちの憲法の人々の情熱』
- 『二冊で学び直し！日本史』
- 『開国と英和辞書—評伝・堀達之助』
- 『ことばの海 国語学者 大槻文彦の足跡』
- 『日本の演劇人 井上ひさし』
- 『ビゴリーの百五十年—異色のフランス人画家と日本—』
- 『芦東山の生涯』
- 『二分の一』（上・下）
- 『アーサー・シイク 義憤のユダヤ人絵師』 他二点
- 『仙台文の會』第十六文集『井上ひさしと私』
- DVD『わたしはここにいます』石巻・門脇小学校・夏』
- 『H丸伝奇』
- 『大正大震災大火災』
- 『吉野作造の国際政治論 もうひとつの大陸政策』
- 『日記に読む近代日本3 大正』

- （寄贈者）
- 塩田茂純 大和田一郎 佐々木一 赤間潮 新書道センター 聖句書道センター 町田市立自由民権資料館 仁昌寺 市民セクター政策機構 高橋英清 芳賀清 佐々木ユ 井上川出版 山澤晴子 田澤晴子 明治大学史料センター 永澤一 平野一 読売新聞 峯岸和生 ロム・インターナショナル 堀博孝 一関孝彦 扇田昭彦 清水昭彦 芦東山記念館 菅井談林 袖井文二 仙台文の會 青藤卓司 後藤弘一 橋本卓也 吉川文弘

東日本大震災時に
ご寄付いただいた皆様
吉野恒子様
平澤篤子様
上田雪子様
ボルック弥栄子様
（株）リフレッシュかむろ様

利用案内	開館時間	9時～17時（入館は16時30分まで）				企画展開催中	
	入館料	区	個人	団体(20名様以上)	個人	団体	
		一般	310円	250円	500円	400円	
		高校生	210円	160円	300円	200円	
	小・中学生	100円	80円	200円	100円		
休館日	月曜日（但し、月曜日が祝祭日の場合は翌日が休館日となります。） 年末年始（12月29日～1月3日）						

〒989-6105 宮城県大崎市古川福沼1-2-3
TEL 0229-23-7100
E-mail yoshino-npo.fg@blue.ocn.ne.jp
URL http://yoshinosakuzou.jp

吉野作造記念館

<p>地球にやさしい環境クリエーター 有限会社 千田清掃 chida 大崎市古川狐塚字西田77番地 電話 0229-27-3151</p>	<p>Daisyo 人と環境にやさしい物流会社 株式会社 大昇物流 大崎市古川桜ノ目字新下釜228 電話 0229-28-1700</p>	<p>お酒と食料品のお店 合名会社 佐々源商店 大崎市古川七日町8-42 電話 0229-22-5235</p>	<p>安心と満足を追求！ガスは佐藤酸素！ 太陽日酸株式会社特約店 株式会社 佐藤酸素 大崎市古川李埴1丁目13-57 電話 0229-24-0011</p>	<p>株式会社 北都開発 大崎市古川旭二丁目3番8号 電話 0229-22-2211</p>
<p>地域密着の住まいの総合企業 タカカン 建材のタカカン リフォームのたかかん 高勝の家 大崎市古川休塚字新西田38-1 電話 0229-48-4000</p>	<p>環境と健康の大切さを共に考える WAGATUMA.K.K 我妻建設株式会社 大崎市古川小野字馬場25番地1 電話 0229-28-2639</p>	<p>看板の事ならお任せ!! 株式会社 美研 今こそ農業は魅力満点! 農業生産法人 有ヒロー</p>	<p>モノづくりとヒト作りで地域のお手伝い!! 株式会社 共同システムサービス スピード車検・板金塗装・自動車各種保険・新車・中古車販売 （有）若見自動車整備工場</p>	<p>古川名物 ママも喜ぶババ好み （株）松倉 （株）加藤工務店 （有）曾根蒲鉾店 （株）横保ジャパン 佐々木薬局</p>
古川商工会議所	（株）マツモト	（株）リフレッシュかむろ	プラザホテル古川	